

中北海道

現代俳句協会

会報
106号

令和8年
3月24日発行

発行人 五十嵐秀彦

発行所 中北海道現代俳句協会

〒064-0952 Tel. 011-641-1007

札幌市中央区宮の森二条八丁目の一八Fよしと方

編集人 青山醉鳴

〒061-1354 Tel. 090-3398-3457

恵庭市島松旭町四丁目九の一

〈正しい〉四季はどこにあるか



島崎寛永

立春を過ぎると、本当に春が来る。入学式に、本当に桜が咲いている。夏休みが八月三十一日まである。軒先に柿や柑橘が実をつける。冬に、色がある。

私は六年前、大学進学と共に茨城へ転居した。十八年間生まれ育った札幌を離れ、私は茨城で「日本の〈正しい〉四季」を目の当たりにした。冒頭に列挙したものは、その具体例である。アニメや漫画、テレビなど、幼少期から知らず知らずのうちにメディアで見聞きしてきた日本の四季には、〈正しさ〉だけがあつて、自分の触れられるものではなかった。ところが、茨城には、メディアで描かれるのと同じ〈正しい〉四季があつた。それは曆に、そして歳時記にある四季だった。

上野公園で花見をし、江ノ島で海水浴、箱根で紅葉狩り、那須高原でスキーを楽しむ。東京（と敢えて大雑把に呼ぼう）の人間による〈正しい〉四季の楽しみ方（あるいは消費

の仕方）と共に、私は茨城の四季を、衝撃をもって受け止めた。

北海道は辺境の地だ。それは「開拓者精神」などと明るく簡単に消費できるものではない。気候、歴史、文化、あらゆる面で北海道は本州と異なる。「札幌って冬はスキーを滑って学校に行くんでしょ」と冗談交じりに言われたり、「北海道出身なのに色白じゃないよね」とセクハラ紛いのことを言われたりしながら、本州の人たちの北海道に対するまなざしを感じてきた。同時に私も、「雪国では氷点下の方が過ごしやすい」などと言っては道産子という属性を前景化してきた。

このように日本には画一的なただ一つの文化が横たわっているのではない。時間的にも空間的にも広がりと差異をもっている。

時間的な広がりには想像しやすさだろう。例えば、夏の季語「毒消売」は食あたりの薬を売り歩く商人で、越中地方が有名だが、衛生環境や医療の変化から、今日では見るものが少なくなつた。逆に「クラーラー」などは明治の頃には無かつた季語だ。このように季節の過ごし方、感じ方は時代によって異なっている。

空間的な差異は、例えば北海道に注目すれば、方言「凍れる」、郷土料理「石狩鍋」、ア

イヌ民族の伝統的な祭「熊祭」（イオマンテ）といった季語が想起される。また、例えば同じ「節分」でも、北海道では落花生をまくが本州では大豆をまくという違いがある。さらに私の生活圏である茨城県南の一部地域では、焼いた鯛と柊の葉を玄関先に飾り、魔除けとする風習がある。このように、地域によって文化は異なり、空間的な差異がある。日本という一つの国家の中には、かくも多様な文化があるのだ。

ただ、こうした地域ごとの多様さが語られるようになったのは、政治的な背景もある。二〇〇〇年に地方分権一括法の施行、地方自治法の改正・施行がなされ、中央集権から地方分権へと舵が切られた。地方の自主性が重視されると共に、過疎化や少子高齢化を背景に、地方自治体は自らの魅力アピールし、人と金を集めることが必要になった。地域によって異なる文化や魅力を大切にしようという言説は、そういった文脈と無関係ではない点には留意したい。

しかし、それでも私は、本州の、関東の、そして東京の四季を、ただ一つの〈正しい〉四季だとは思わない。それぞれの地域に、その地域の生活感覚と密接に結びつく形で四季がある。それが本当に〈正しい〉四季のあり方だと思う。私が筑波山の梅林を詠む間に、北海道の俳人は目の前の大雪を詠むかもしれない。四季は客観的な物差しによって規定できるただ一つのものではなく、それぞれに感覚される主観的なものだ。それが〈正しい〉四季のあり方ではないか。

（しまぎき・ひろなが 雪華）

中北海道現代俳句協会総会の記

中北海道現代俳句協会 参与

石本 雪 鬼

R 8. 2. 7 (土)
於 かねて 2・7 730室

総会概要を報告する。現在の会員が百十四名であり、出席会員が二十三名、欠席委任状提出六十二名の合計八十五名は過半数を超えており、総会成立条件を満たしていることを司会のFよしと氏が報告、総会議長に石井美髭氏が選出され総会が始まった。

令和七年度の事業報告では、一月二十六日の選考委員会で第二十五回中北海道現代俳句賞に応募総数二十二編の中からF よしと氏の「すこし後ろ」が選ばれた。二月一日の令和七年度総会が参加者二十四名・委任状五十二名で成立し、各議題が監査委員齋藤雅美氏の監査報告を含め承認された。四月六日の第三十四回中北海道現代俳句大会では古谷昌伸氏が「俳句年鑑を読む」と題する講演で記録を残す観点から北海道俳句年鑑を評価され、五十名の参加者と共に記録継続への思いを新たにされた。八月三十日の俳句研究交流句会には後日入会した方を含め、七名の会員外参加者を迎えた。十一月三十日には「俳句カフェ」が開かれ会員外参加者は二十二名に及んだ。年六回の幹事会はこれら一連の行事を支えた。また、第五十九回北海道俳句協会賞正賞に青山酔鳴さんの「鮭遡上る」が決まったことを祝い、五十嵐秀彦会長から日本酒が贈呈され総会を終えた。なお、令和八年度の北海道現代俳句大会は六月十四日に旭川で開かれる予定で、出句締め切りが四月十日であることも忘れられない。

(いしもと・せつき 雪嶺主宰)

令和8年度中北海道現代俳句協会 事業計画 (案)

日 程	事 業 計 画	
1月21日(水)了	第26回中北海道現代俳句賞 選考委員会 かねて2・7にて開催 応募総数18編<受賞作「足りている」・坂本真紅氏に決定>	組織活動部 顕彰係
2月7日(土)了	令和8年度定期総会 かねて2・7、新年交流会 ポールスター札幌にて開催	事務局
4月5日(日) 実施予定	第35回中北海道現代俳句大会 かねて2・7、懇親会 ニューオータニイン札幌 講演 豊川容子氏(アイヌシンガー・北海道立文学館評議員) 演題「未定」	事業部
8月29日(土) 実施予定	俳句研究交流句会 かねて2・7 札幌市中央区北2西7	組織活動部
11月23日(月祝) 実施予定	俳句カフェ かねて2・7 札幌市中央区北2西7	組織活動部
8月より	第27回中北海道現代俳句賞 募集開始 締切12月15日(火) 当日消印有効	組織活動部 顕彰係
そ の 他	会報第106号・107号・108号(3・7・12月発行)「一人一句集」3月発刊(今号同封) 幹事会 年6回(奇数月) / 三役・顧問・中北海道現代俳句賞選者の会 年1回実施予定	広報部 事務局

現在の役員・幹事構成 (五十音順)

役 員		
会 長	五十嵐秀彦	
副 会 長	瀬戸優理子	松王かをり
事 務 局 長	F よしと	
監 査	江草 一美	齋藤 雅美
顧 問	永野 照子	横山いさを
参 与	石本 雪鬼	亀松 澄江
幹 事		
会 計	高島 葉子	
総 務 部	阿部 満子	中村みずほ(新)
事 業 部	遠藤由紀子	中田 琢志(総務部兼任) 村瀬ふみや(新)
組織活動部	及川 和弘	近藤由香子 鹿岡真知子
	菅井美奈子(顕彰係・総務部兼任)	中田真知子
広 報 部	青山 酔鳴	廣田 和久

中北海道現代俳句賞選者

五十嵐 秀彦
 亀松 澄江(新)
 齋藤 雅美
 瀬戸 優理子
 松 王 かをり

会 員 動 向

〈入 会〉
 白井 尚子・大崎 素直
 小西 電波・渡辺 好子
 〈逝 去〉 白井 千百
 会員数114名(R8年1月現在)

入会問合せ
 事務局 Fよしと
 TEL・FAX 011-641-1007

第26回 中北海道現代俳句賞受賞作品



受賞者 坂本眞紅氏 プロフィール

1962年 東京生まれ 札幌市在住
 2018年 朝日カルチャーセンター
 札幌教室（源鬼彦先生）受講
 2020年 「ペガサス」入会
 2021年 現代俳句協会会員
 2023年 「ペガサス」同人

足りている 坂本眞紅

花冷やヒーローシヨ一の最前列

感情にルビ振る人と見る桜

白い部屋どろんと真夏ころがりぬ

密林を分け入るように平泳ぎ

客あしらい水羊羹に委ねたり

不妊治療終える選択水中花

幽霊の着物たたんで冷蔵庫

桃狩のナイフ渡されたじろげり

吊し柿いかなる咎のありてここ

任せると言って口出し電馬跳ぶ

密漁の魚籠忍び入る寒月光

獲物一冊冬麗のブックカフェ

習作の余白木枯の独白

冬銀河大風呂敷をぶちまけて

討入の日や上司決裁印しぶる

歳暮のハム薄からず厚からず切る

カリフラワー悟り半ばにして螺髪

泣き顔をくぐり抜けてゆくセーター

古日記乾いた地層掘り返す

足りなくて足りているらし冬景色

令和7年度 第26回 中北海道現代俳句賞一次選考結果

番号	作品名 (作者名)	五十嵐秀彦	亀松澄江	齋藤雅美	瀬戸優理子	松王かをり	点数
1	虫の恋 (西井健治)			○			1
3	萩のこゑ (村一草)		○			○	2
5	不発弾 (村瀬ふみや)	○	○				2
7	足りている (坂本眞紅)	○		○	○	○	4
8	訃音 (近藤由香子)	○	○	○	○	○	5
17	あばかれて (大崎素直)				○		1

選考経過

選考委員長 五十嵐 秀彦

第二十六回中北海道現代俳句賞の応募作は前回より若干減って十八作品だった。選考委員が事前に各自三作品を推薦した上で、令和八年一月二十一日に「かでのる2・7」で選考委員会を開催。選考委員は齋藤雅美、亀松澄江、松王かをり、瀬戸優理子、五十嵐秀彦の五人。全員が当日出席し、欠員無く最終選考ができた。

まず一次選考の結果を確認。十八作品中、委員の票が入ったのは六作品。二票以上を得た作品は四作品。この段階で五票と四票を得た二作品が一次選考段階では目をひいた。ただし一次選考では各委員が推薦三作品に順位を付けていないので、票数だけでは判断できない。選考会では委員がそれぞれ推薦作について意見を述べる形で検討を進めた。その内容は所感を読んでいただきたい。まず一票の二作品は検討から外し、残る四作品について改めて討論。二票を得ていた「不発弾」(村瀬ふみや)は力作ではあったが、本歌取りの句が多数あり全体を弱めているという指摘が多く出て、残念ながら最終検討段階で外さざるを得なく、残る作品「訃音」(近藤由香子)、「足りている」(坂本真紅)、「荻のこゑ」(村一草)の三作品に絞ることとなる。便宜上、上記文中に作者名を書いているが、選考中は受賞作が決まるまで作者は分からないままでも検討されたことは言うまでもない。三作品に絞って討論を続けても、全委員が受賞作にふさわしいと一致する作品を決められず、最終投票で決定することとなった。一位に三点、二位に二点、三位に一点を加える形で投票を行った結果は、「足りている」が十一票、「訃音」が十点、「荻のこゑ」が九票。一点差の大接戦となる。「足りている」の受賞がここで決定しても良かったが、

接戦であり、かつ五人の委員がそれぞれ一位に推した状況が、「足りている」一名、「訃音」二名、「荻のこゑ」二名と散り、決定的な差が出なかった。三作とも十分受賞水準の作品であり、佳作を出すことはできないかという提案も出る。しかし今回それを実施すると以降も佳作該当作を検討する必要があることや、正賞の価値が薄れるなどの問題があるため、今回も正賞のみを決めることにした。

あらためて議論して、最終投票で最高点の「足りている」を受賞作とすることに異論はないという結論に至った。僅差で受賞を逃した「訃音」はまことに惜しい結果となったが、今回の選考経緯から作者は自信を持つてほしい。再度の挑戦に期待する。「足りている」の坂本真紅さんは、良作の並ぶ中での正賞受賞であったことをぜひ誇りに感じていただきたい。

(いがらし・ひでひこ 雪華・アジュール)

手応え十分の候補作

五十嵐 秀彦

今回の私の一次選考三作は、「不発弾」「足りている」「訃音」であった。三作品ともに个性的で、共鳴句が多かった。

⑤「不発弾」

村瀬ふみや

隠り世の夜市を泳ぐ秋の蛇
虎落笛救急箱の薄埃

「不発弾」は、言葉に力があり二十句全体をその力が貫いていて、骨太な印象。それをよしとしたかったが、やはり問題点を指摘しなければならぬ。渡辺白泉、三橋敏雄、金子兜太への傾倒が、本歌取りとなって強く現れていた。それ自体否定されるものではないが、兜太を思わせる(梅擬ぼろぼろ青鯨があふない)、白泉を思わせる(梟が廊下の奥の暗がりに)、敏雄を思わせる(雪しんしん彼の狼を匿ひぬ)、さらに兜太・敏雄に似た(螢ほたる真神の墓を守りたる)のように、二十句の中で四句を数え上げたとき、やはり多すぎた。

⑦「足りている」

坂本 真紅

感情にルビ振る人と見る桜
白い部屋どろんと真夏ころがりぬ
幽霊の着物たたんで冷蔵庫

「足りている」の句はどの句にもちよつと奇妙な謎があり、それが効果をあげていた。日常と背中合わせの非日常を描こうとして

中北海道現代俳句賞応募について 組織活動部顕彰係からのお願い

◎応募用紙と作品用紙の記入欄の書漏れ
やチェック欄の☑漏れにご注意ください。

◎作品を郵送の際には入れ忘れのない
ように、応募用紙と作品、応募料を
再度ご確認ください。

以上よろしくお願い申し上げます。

いる。八田木枯の句の雰囲気に似ているものを感じた。ただ、〈討入の日や上司決裁印しぶる〉は取り合せが少し俗に流れて、やり過ぎてしまった。作品全体の不思議感が損なわれてしまった残念なところ。

⑧ 「訃音」

近藤由香子

毛糸編みとぎれとぎれの海馬編む

花びらを踏む生傷を踏むやうに

訃のいまだ生あたたかく蟬しぐれ

応募作全篇に眼を通した中で最も好印象を持った。年齢を重ねるにつれてしだいに多く出会うことになる「訃」の存在。それは日常なのだが、同時に生死の奈落を垣間見る機会でもある。そのことを一句一句独立させながら、連作にありがちの押しつけがましさがなかった。詩性の高さも魅力だ。問題点をあげるとすれば、「て」の使用が目立って多いところだろう。一句の中では効果をあげているが、二十句の中に多出すると手癖を感じさせて損をしてしまう。

最終選考段階では「訃音」を一番に推した。しかし「足りている」の受賞決定に異論はない。坂本眞紅さんの受賞を祝したい。

今回の応募で特筆すべきことは学生作家の作品が三作あったことだ。どれも切り口が新鮮で个性的であり、今後に大いに期待できるものであったことを最後に付け加えておきたい。

(いがらし・ひでひこ 雪華・アジュール)

選考は難し

亀松澄江

今年から選考委員となったが、選考は非常に難しかった。第一次選考で次の三篇を推した。

③ 「荻のこゑ」

村 一草

指切りも三つの母子手帳も臙

茄子に油吸はせて明日は雨予報

諍ひになるやも林檎むけば芯

断崖があり鼻に羽角あり

一句目、「三つの母子手帳」は何物にも代えがたい家宝である。「臙」は反語と理解。ただ作品の最初が弱かったため全体の調べが高まった辺りに置いて欲しかった。二句目、瑠璃色の茄子を輝かせ明日は雨と裏切る楽しさ。三句目、何が「諍ひ」に発展するかなんて分からない。それを林檎の芯に置き換える巧み。四句目、どちらにも角がある二物衝撃の句。森の守り神である梟の可愛い羽角を捉えたのが手柄。平易な言葉を用いつつ意外な着地ですると体を躲す奥の深い作品群だった。

⑤ 「不発弾」

村瀬ふみや

指を切る紙の白さや帰り花

虎落笛救急箱の薄埃

眠剤の真白を砕く糸桜

一句目、「紙の白さ」に焦点を充てたことにより感性の鋭さが極まり、帰り花の取り合わせが情感を呼ぶ。二句目、「虎落笛」を頭に、中七下五の何気ない薬箱の状態を詠む心地よさ。三句目、眠剤を砕く心の揺れと糸桜

の揺れが静かに響き合う。全作完成度が高いが有名句のオマージュと題名の「不発弾」のイメージが全体に多かつたように思う。

⑧ 「訃音」

近藤由香子

毛糸編みとぎれとぎれの海馬編む

訃のいまだ生あたたかく蟬しぐれ

一句目、物忘れは「海馬」が原因？編み物のついでに海馬も補修してしまう諧謔が何とも楽しい。二句目、死はいつも永遠の悲しみである。「生あたたかく」の措辞と命短い蟬時雨の季語に情感が増す。完成度の高い作品だったが「て」の多用が残念。

⑦ 「足りている」

坂本 眞紅

白い部屋どろんと真夏ころがりぬ

冬銀河大風呂敷をぶちまけて

カリフラワー 悟り半ばにして螺髪

足りなくて足りているらし冬景色

《幽霊の着物たんで冷蔵庫》に躓き三点の中に選びきることは出来なかった。しかし、もともと掲句のように共鳴句はたくさんあることから、受賞に異論はない。一句目、真夏の暑さを物のように転がって消えたという可笑しさに共鳴。二句目神秘的な「冬銀河」と俗な「大風呂敷」の取り合わせは眞紅さんならではのであろう。三句目、四句目、「悟り半ば」の「螺髪」、そして雪ばかりの景色はやはり足りているのだ。どちらもシンパシーを覚える。どの句も独創性があり無邪気な明るさが魅力。坂本眞紅さん、ご受賞誠におめでとうございます。

(かめまつ・すみえ 草木舎)

選考所感

齋藤 雅美

応募作は昨年より少ない十八編だったが、読み応えがあった。趣向をこらし個性を發揮して二十句をまとめており、選考は難しかったが最終的に完成度が高く独創性もある三編を一次選考として選んだ。

①「虫の恋」

西井 健治

蟻穴を出でて心でもものを見る
蠟螂に惚れられてゐるうなじかな
君を待つ心の隙に冬の蠅

虫をテーマに春夏秋冬の句をまとめた意欲作で、常套的、踏み込みの甘い句も多かったが心情を虫に託し工夫をこらした句が多かった。春になると地表に出てくる蟻の句。小さな蟻に着目し物事の本質を見極めようとする意志が託されている。カマキリの大きい雌に不用意に近づくと小さい雄は捕食されてしまう。詐欺など善意の間隙を突く現代社会の闇を暗示しているのか。夏場は元気でも冬まで生き残り人間の近くに寄ってくる冬の蠅は心の隙に不安をもたらず。気をもみながらパートナーを待つ時間が遣る瀬ない。

⑦「足りている」

坂本 眞紅

不妊治療終える選択水中花
密漁の魚籠忍び入る寒月光
足りなくて足りているらし冬景色

句柄が整い手慣れた印象を受ける。内容は深く心理の裏を感じる句が多い。不妊治療は

子を望むカップルには重要な判断だが、続けてきた不妊治療を終えるのは更に重い決断であるに違いない。作り物の水中花の華やかさが空しい。禁止水域での密漁の魚籠に寒月光が静かに差し込み、獲物を照らす。小賢しい人間の所業など自然界の慧眼には及びもつかない。冬景色は雪が降った後の一面の銀世界を想像する。白一色の景は物足りない印象だが、雪の下には春を待つ大地と生きとし生ける物のエネルギーが内包されているのだろう。

⑧「訃音」

近藤由香子

花びらを踏む生傷を踏むやうに
訃のいまだ生あたたかく蟬しぐれ
蛆に風の出会ひを刻む処暑

共感を誘う好印象の句が多い。一方、不用意な助詞「て」の頻出が極めて残念で、これが無ければ評価は上がったはずである。桜の花が散り敷いた道を歩かざるを得ない時、まるで生傷を踏むようだという心持ちにシンパシーを感じる。訃報は往々にして突然やってきてその事実を受け入れるのは難しい。時が過ぎて故人の記憶は生前の温みを保ち、慟哭のような蟬時雨が遣る瀬ない。キッチンで俎を使っている句は軽快で明るい。暑さが峠を過ぎ窓からの風に癒されながら野菜を刻んでいる。「風の出会ひ」の措辞が秀逸。

議論の末、「足りている」が受賞と決定した。選んだ三作品は応募歴の長い方ばかりでレベルが高いのは頷ける。受賞された坂本眞紅さんに祝意を表するとともに、他の二作品の応募者には他日を期してほしい。

(さいつとう・まさみ 秋・秋さくら)

大接戦！

瀬戸 優理子

私が予選で選んだのは、次の三篇である。

⑦「足りている」

坂本 眞紅

桃狩のナイフ渡されたじろげり
歳暮のハム薄からず厚からず切る
足りなくて足りているらし冬景色

平熱の飄々とした筆致で、日常に潜むちよつとした闇や違和や毒を見せる。十七音で世界を縫い合わせつつ、その縫い目をぴっちり閉じず、あえて隙間を見せて読者に想像させる作品に惹かれた。「たじろぐ」「薄からず厚からず」「足りなくて足りている」の措辞に作者独自の感性がきらめく。
〈討入の日や上司決裁印しぶる〉の因果に近い季語の配合、〈習作の余白木枯の独白〉など言葉先行で力の入りすぎた句もあったが、二十句全体では個性を存分に發揮した粒揃いの作品群と感じた。決戦投票では僅差で⑧「訃音」を推したが、受賞に相応しい作品と思う。接戦を制してのご受賞おめでとうございます。

⑧「訃音」

近藤由香子

毛糸編みとぎれとぎれの海馬編む
訃のいまだ生あたたかく蟬しぐれ
鈴虫の夜伽のやうに風の庭
もも缶を開けて秋思の棚おろし

「訃」や「死」をテーマとしながら重たく暗くない、それでいて静かに深く染み入るよ

うな詠みぶりに心惹かれた。特定の人物を悼む一連ではなく、個別の「訃」をその時々々の感情で受け止め昇華していく。引用句はいずれも季語が一句の中に溶け込み、作者の身体感覚を通じた詩語が読者の五感を刺激する点に力量を感じた。特に〈訃のいまだ生あたたかく〉の句は今回の応募作品中随一と感じ、決選投票では一位に推した。

一方で、他の委員からも指摘のあった「て」の多用やリフレイン構文の多さは、もう少し慎重に推敲できたのではないかと勿体なく思った。一句単位の完成度に加えて二十句並べた時の叙述の偏りが解消されると、より世界観が研ぎ澄まされる。再挑戦を期待したい。

⑬ 「あばかれて」

大崎 素直

泣くときは鼻の奥から胡桃割る

銀杏を踏む勢ひであきらめる

「象徴詩」としての俳句の特性をよくわかっている書きぶりに注目。選考後に配布の資料によると、初応募の大学生。新鮮な発想に対象に迫っていくような凄みも加わってくると楽しみな存在となるだろう。

最終候補に残った③「萩のこゑ」は〈茄子に油吸はせて明日は雨予報〉が印象深かった。その他「半月が重い」「不発弾」にも注目。本年はいずれも力作で読ませる作品が多く、近年稀にみる大接戦となり、予選から頭を悩ませた。選考委員としては、それだけ作品とがっぷり組み合えた幸せな時間であったとも言える。

(せと・ゆりこ) ペガサス・豈

選考所感

松王 かをり

応募数は、前回の二十二編から十八編へと数を減らした。けれど、選考後にわかったことであるが、初めて応募してくださった方が五名、そしてその中には大学生の方もいて、なかなかの力作が揃った。それに伴って、選考が難しく、最後まで「萩のこゑ」「足りている」「訃音」の三編が競り合った。三編を選ぶ一次選考では、わたしはこの三編を選んだ。

③ 「萩のこゑ」

村 一草

茄子に油吸はせて明日は雨予報

峰雲へ一時停止が多過ぎる

象を待ち鯨を待てど末枯るる

私の中では、○のついた句が最も多かった作品である。一句目、夏の台所の景を詠んだ後に、「明日は雨予報」と。からから天気が続いていたところに、雨予報が聞こえてきて、ほっとしている景が立ち上がってくる。日常の一コマを、巧みに一句に仕立てている。二句目、「一時停止」がうまく働いている立体的な一句。実際の道路標識でありつつ、湧き上がる峰雲に、さらには、作中主体の心の動きにもストップをかけているのかもしれない。三句目は、最も心惹かれた一句。陸海の最大の動物である「象」と「鯨」をあげて、何かを待っているその期待の大きさを表している。けれどそれはやって来なかった。季語の「末枯るる」を含めて、一句全体がメタファーであり、「俳句は比喩である」ということを改めて考えさせられた一句である。

⑦ 「足りている」

坂本 眞紅

不妊治療終える選択水中花
歳暮のハム薄からず厚からず切る

受賞作となった作品。一句目、「不妊治療を終える」という厳しい「選択」と、フェイクの花である「水中花」が、せつなく響き合っている。二句目、普段スーパーで買っているハムとは違って、到来もののハムを、さて、どの厚さに切ろうかと。その心の揺らぎを「薄からず厚からず」と、巧みに詠んでいる。ただ、〈幽霊の着物たたんで冷蔵庫〉といった句は、俳諧味を狙ったのかもしれないが、あまり感心しなかった。しかし、日常のなにげない場面に光を当て、それを詩に昇華させようとする姿勢を評価し、この作品を受賞作とすることに同意した。ご受賞おめでとうございます。

⑧ 「訃音」

近藤由香子

訃のいまだ生あたたかく蟬しぐれ
鈴虫の夜伽のやうに風の庭

タイトル通り、死を悼む気持ちが底流に流れていて、テーマ性のある作品である。一句目、まだ実感として受け止められない気持ちを生あたたかく、二句目、一晚中聞こえてくる鈴虫の声を「夜伽のやうに」、こうした措辞のうまさに感銘を受けた。ただ、最後の方にきて、〈初雪はしづかにゆくりなく訃音〉とあるのはどうなのだろうか。むしろ初めの方におくべき句だったのでないかととても惜しまれる。

三編以外では、「闕」の〈寒鼻カタコトのままレンアイす〉〈あのひとは褒められ上手室の花〉に注目した。

(まつおう・かをり) 銀化・雪華

令和8年度中北海道現代俳句協会 「俳句研究交流句会」のご案内

〈事前投句とし、当日は選句・選評に十分な時間を割きます〉

- 1 日 時 令和8年8月29日(土) 受付開始11時30分・開会12時・閉会15時40分ころ
- 2 会 場 かでる2・7 820研修室(仮) 札幌市中央区北2条西7丁目 TEL 011-204-5100
※昼食は各自お済ませ下さい
- 3 出句締切 令和8年8月15日(土) 消印有効
- 4 会 費 1,000円(当日受付・学生無料)
- 5 問 合 先 組織活動部 鹿岡真知子 TEL 011-694-6075
または事務局 F よしと TEL 011-641-1007
- 6 送 付 先 〒005-0022 札幌市南区真駒内柏丘1-6-7 近藤由香子 TEL 011-584-0234

中北海道現代俳句協会主催

一日限りの「俳句カフェ」へようこそ

総務部 中 村 みずほ

R7.11.30(日)
於 かでる2・7

去る十一月三十日、二回目となる中現俳主催「俳句カフェ」が開催され、五十二名の参加者で会場は満杯となりました。

第一部は、瀬戸優理子さんによる作句方法のレクチャーとアドバイスの後、早速お題が発表されました。今回のテーマは「音の聴こえる句」または「キッチン道具を詠み込んだ句」。緊張の作句タイム二十五分間が終わり、四十八句が投句されると、五十嵐秀彦会長、瀬戸優理子・松王かをり副会長は別室での選句作業に入りました。

続く第二部は、三氏による「中北海道現代俳句賞」の過去三年間の受賞作品をめぐる座談会。審査員の立場からのアドバイスは、たいへん興味深いものでありました。

そして第三部、いよいよカフェ句会が始まりました。予選通過の十句が発表され、まずは第一印象での人気投票。更に、それぞれの句について会場内から「推し」コメントをいただき、鑑賞と交流を深めました。そして再度の投票の結果、俳句カフェ賞一名と選者賞三名が決定。各句の作者の名乗りに会場から歓声とあたたかい拍手が起こり、各選者から賞状と記念品が贈られました。

今回は大学生など若い方の参加も多く、おかげさまでたいへん和やかで活気あふれるイベントとなりました。次回もぜひ、たくさんのご参加をお待ちしております。

俳句カフェ賞

菜箸でオリオンの位置ととのえる 大崎 素直

五十嵐秀彦の推し句

倍速の咳密度濃き星空よ 芳賀 たかこ

瀬戸優理子の推し句

帰り花過去馴染ませる匙加減 F よしと

松王かをりの推し句

巻き尺の戻るはやさや小六月 阿部 満子

(なかむら・みずほ 雪華)

一日限りの

俳句カフェ

へどうぞ



3rd

中北海道現代俳句協会主催
2026年11月23日(月・祝)
かでる2・7にて13時より開催予定
詳細は次号にてお知らせいたします

礎

浅井通江

略歴 昭和十九年（令和三年、享年七七。満州大連生まれ。北光星俳句講座を経て五九年「道」入会、函館転居後退会。平成元年杉野一博俳句講座を経て平成三年「解」創刊に参加。札幌転居後、平成五年「葦牙」入会、平成八年葦牙新人賞・葦牙賞、翌年退会。平成十年第三十一回北海道俳句協会賞準賞、平成十四年「解」賞準賞、平成十五年正賞。平成十七年第五回中北海道現代俳句賞準賞。平成二十二年第十回中北海道現代俳句賞。句集に『父の咳』、また『もういいかい』にて第三十三回北海道新聞俳句賞佳作。

みどりまみどりピノキオの鼻伸びる
舞台暗転香水の名はミツコ
天高し隣の席が空いていて
みかん剥く気つかぬほどの空の罅
凧のてっぺんにあるゴッホの耳

「歯車」「草木舎」江草 一美 抄出

石田 雨圃子

略歴 明治十七年（昭和二十七年、享年六八。富山県生まれ。北海道旭川の浄土真宗僧侶。長谷川零余子に師事し、「枯野」課題句選者となった後、高濱虚子に師事し、「ホトトギス」同人となる。昭和八年に旭川で開催した北日本俳句大会の記録が「古潭」という一冊に残されている。「雪舟」「木ノ芽」「石狩」「古潭」を創刊し、北海道における花鳥諷詠の俳人を傘下に収めた。句集『看経余録』『牡丹の芽』。

汲んでゐる鯨を盗む鷗かな
春宵は墨絵のごとく尼おはす
世に忘れられて気まゝや放屁虫
詣で来て神有月の大杜かな
炉埃やこのごろとみに物忘れ

「ホトトギス」「雪華」増田 植歌 抄出

〔青のフロント十二月〕 佳句抜粹

闇に還す冬の昴を切株を	五十嵐 秀彦
還流の年末賞与べらべらり	風花 美絵
豪雪の避難袋にあるビスコ	中本 伸一
冬日向セピアの頃に還る母	ただ すみれ
セーターをほどこいて還元される吾	松山 りさ
少林寺七十二藝寒昴	青山 醉鳴
地に還るあてなし除染土の互つる	近藤 由香子
雪しまく夜はとっぷりロシアンテイ	村瀬 ふみや
働いて働いて働いたまま年を越す	谷 花丸
戦など海鼠となつてやり過ごし	梨山 碧
ニッポンのまた三島忌の朝の猫	石井 美髯
オリオンが金平糖になる童話	F よしと
形良き雪吊りの雪暖かし	戸田 幸四郎
麻酔して意識失ふやうに雪	増田 植歌

店先にお客誘う桃の花	石本 雪鬼
五百円握って句会春隣	芳賀 たかこ
おもむろに春の雪とは問ふ漢	風花 美絵
用意せし義理チョコ百個バレンタイン	風花 まゆみ
春色の百貨店には場違ひな	中村 みずほ
百戸の雪一戸の春と思ひけり	五十嵐 秀彦
マフラーの触角がさよならの距離	F よしと
大雪や残るシップはあと二枚	中本 伸一
百均のころころ笑ふしやぼん玉	村瀬 ふみや
念力に頼らず雪を掻く淡淡	青山 醉鳴
雁風呂や首まで浸かる浜訛	増田 植歌

〔青のフロント 二月〕 佳句抜粹

第五十九回北海道俳句協会賞

令和八年一月九日に開催された選考会に於いて、当会会員・青山醉鳴氏の作品「鮭遡上る」が第五十九回北海道俳句協会賞正賞を受賞しました。授賞式は六月七日の全道俳句大会の席上にて行われます。

鮭遡上る

青山 醉鳴

眞神なき山を闊歩の罷どち
トーチカのひと知れず崩え蒼鷹
露味噌の若書めける甘苦さ
草の芽の泥ひとくれをかづきをり
やはらかき星すなどれる蚕卵紙
カップ酒あれば花見となる歩巾
だし巻のうづをかさねて花筵
涼しさや中古美品のピアノ弾く
羅の乳房に奈落きらめきぬ
遠雷やためらひのごと和綴の背
草笛の指はうれひを知る湿り
紅葉づるやゆがむ明治の窓硝子
ほたほとと胡桃柚餅子を練る右手
鮭遡上る河を夜空を傷つけて
虎落笛奇譚のやうに抜けだせず
数へ日の縁は薄くてすぐ了る
ひとりゐのあつさり嵌まる福わらひ
革足袋のこらふる弓の撓りかな
十戒の海のごとくに牡蠣を割る
雪晴風ほどけて北へゆく汽笛

第35回 中北海道現代俳句大会のご案内

- 1 日 時 令和8年4月5日(日) 13時より
- 2 会 場 かでる2・7 520号室 札幌市中央区北2条西7丁目1 TEL 011-204-5100
- 3 会 費 大会費:1,000円 当日受付にて申し受けます
- 4 講 演 豊川容子氏(アイヌシンガー・北海道立文学館評議員)
- 5 演 題 「未 定」
- 6 講 評 道内外主要作家
- 7 大会出句 受付は終了しています・多数のご出句に深謝いたします
- 8 問 合 先 〒062-0020 札幌市豊平区月寒中央通10-1-1-301
中田琢志 TEL 090-3898-2322
- 9 懇 親 会 ニューオータニイン札幌(中央区北2条西1丁目1の1)にて午後4時45分から
- 10 懇親会費 5,000円(予定) ※当日受付にて申し受けます
※懇親会のキャンセルは当日2日前までとし、連絡無き欠席の場合は会費を頂戴します

◆ なお当日は第26回中北海道現代俳句協会賞の顕彰も併せて行われます ◆

幹 事 会 報 告

R8.1.22(木) かでる2・7 610会議室

- 1 令和8年度総会及び新年交流会(事務局)
- 2 第35回中北海道現代俳句大会(事業部)
- 3 第26回中北海道現代俳句賞(組活部・顕彰係)
- 4 三役・顧問・選者の会(事務局)
- 5 会報106号(広報部)
- 6 その他/会員動向他(事務局)

—— 青のフロント句会のご案内 ——

日 時: 偶数月第2土曜日 13~16時
会 場: かでる2・7

席題有・当季雑詠3句

問合先: 五十嵐秀彦 TEL 011-852-7014

会員以外の参加も歓迎しています。お誘いあわせの上お越しください。

〈第31回東北海道現代俳句大会〉

- 1 日 時 令和8年4月19日(日) 13時半~
大会参加費 1,000円
- 2 会 場 釧路市生涯学習センター6階・601号
釧路市幣舞町4番28号 TEL 0154-41-8181
- 3 講 演 石川青狼氏・粥川青猿氏
演 題「鈴木八駄郎を語る」
- 4 出 句 受付は終了しています
- 5 懇 親 会 16時半~ 会費4,000円
懇親会のキャンセルは4/15まで
TEL 0154-36-7823(西村)
- 6 問 合 先 〒084-0903 釧路市昭和町2-15-4
鮎橋郁香方 TEL 0154-55-4588
FAX 0154-68-4018

一般社団法人 現代俳句協会 入会のご案内

(一社)現代俳句協会では、多くのおみなさまのご入会をお待ちしております。
ご家族・ご友人にも是非ご紹介ください。入会金・年会費など事務局までお問合せください。

中北海道現代俳句協会 会費納入のお願い

当会年会費2,000円の納入は
振込です。手数料もご負担
下さい。口座番号は以下です。
02780-9-48961

中北海道現代俳句協会 入会のご案内

当協会にはお住まいの地域に関わらず入会頂けますが、その際
上記(一社)現代俳句協会の入会が必須条件です。ただし他の
地区協会にて既に(一社)現代俳句協会会員となっている場合、
重ねての入会は不要です。不明点は事務局にお尋ねください。

第35回 北海道現代俳句大会のご案内 (北北海道現代俳句協会主管)

- ◇日 時 令和8年6月14日(日) 13時より 大会会費 1,000円
- ◇場 所 旭川トーヨーホテル(旭川市7条7丁目右1号) TEL 0166-25-7575
- ◇講 演 家藤正人氏(俳人・株式会社夏井&カンパニー)
- ◇演 題 「未 定」
- ◇講 評 道内主要作家
- ◇応募規定 2句1組 1,000円 所定用紙または原稿用紙を使用、投句料は作品に同封のこと
- ◇応募先 〒078-8320 旭川市神楽岡10条1丁目2-2 加藤ひろみ
- ◇出句締切 令和8年4月10日(金) 必着
- ◇懇親会 大会後同会場にて 懇親会費 6,000円(当日受付にて)

◆大会・懇親会のキャンセルは5日前までにお知らせください(以降は会費を申し受けます)◆

事務局便り

事務局長・F よしと

二月七日「かてる2・7」にて令和八年度の総会を開催しました。今年は例年にならない大雪のため大変な悪路の中をご出席いただき感謝いたします。改めてお礼申し上げます。総会でも説明致しましたが前年度の大会、俳句研究交流会、俳句カフェの各イベントに多くの方々にご参加をいただき内容的にも意義のある結果を残すことができました。これらひとえに会員各位・幹事の方々のご協力の賜物と思ひ感謝に堪えません。今年度も充実した企画の元に実行していきたいと思っております。

さて先日、当協会の設立時より長年協会活動に貢献いただいた臼井千百氏が亡くなられたことを知りました。当協会として謹んでお悔やみ申し上げますと共に、ご冥福をお祈り申し上げます。さて次のイベントである四月開催の中北海道現代俳句大会についてはこの会報にも記しておりますが、アイヌシンガールの豊川容子氏に講演の依頼をしております。是非ともご参加いただき、見識を広めていただきたいと思っております。他各イベントもみなさまの積極的なご参加をお待ちしております。最後になりましたが偶数月の第二土曜日に五十嵐代表の主催する「青のフロント句会」を行っています。これにもみなさまのご参加をお待ち申し上げます。

編集後記

広報部・青山酔鳴

大雪に翻弄された冬も終わり、春の到来です。今年の中北海道現代俳句大会はアイヌシンガー・豊川容子さんの講演と歌。みなさま是非ご観覧ください。俳句研究交流会や俳句カフェの開催も準備中です。どうぞ誘い合ってお越しくください。

長年幹事会を支えてくださった名誉会員・臼井千百さん(元氷原帯)の訃報が届きました。大会懇親会の席上、中北海道現代俳句賞の受賞者の句を、朗々と吟詠される姿が、懐かしく目に浮かびます。へビッグバン同じ時吸う紋白よ 臼井千百 二〇二二年・一句集より。心よりお悔やみ申し上げます。

礎欄の執筆者を募集しています

中北海道現代俳句協会 広報部

礎欄に以下の俳人について生没年・略歴・作品5句を抄出してくださる方を募集しております。

結社・同人誌・句会での活動の記録などの資料は、北海道立文学館などに収蔵されている場合もあり、不足の内容について探すことも可能です。ご縁のある方からの情報提供や、ご執筆を是非お願いします。

園	一勢	加葉田可六	蒲生貨車夫	島崎	桃里
島本	研二	田中 北斗	中島 立	中村	耕人
正部家	一夫	冬木 桃六	松橋 英三	松平	幸雄
高橋	貞俊	津田 露木	宮脇 隆一	井手	都子
粕谷	草衣	後藤軒太郎	深沢 伸二	坂井	とみ子
越沢	和子	伊賀上 泉	加川 憲一	北見	弟花
富山	放浪	金箱戈止夫	小山田信道	鈴木	きみえ
菅原	湖舟	各氏他			